

保存版！

別冊付録

京都  
インテリア  
マップ

大特集

個性を打ち出す  
ホテル&ホステル





# 中東・アジアの 都市型 & リゾートホテル

海外に目を向ければ、おおらかな開放感や大胆なグラフィックで「気持ち良さ」や「特別感」といった個性を生み出しているホテルがある。国内のプロジェクトにも応用できそうな、屋外環境と呼応するラウンジ、テラス、客室、レストランを紹介する。

光の森が内外をつなぐドバイのリゾートホテル

## MANDARIN ORIENTAL JUMEIRA, DUBAI

Hotel MANDARIN ORIENTAL JUMEIRA, DUBAI  
Designer: DesignWishes + Silverfox Studios | Design & Architecture Bureau

Jumeirah Beach Road, Jumeira 1, Dubai, United Arab Emirates

設計 祝安 Design & Architecture Bureau

内装 DesignWishes (ロビー、客室)

+ Silverfox Studios (レストラン、クラブラウンジ、SPA)

協力 照明計画「DPA Lighting」サイン Jackson Daly

ランドスケープデザイン 40 North & Crescent

施工 建築 内装 (レストラン、クラブラウンジ、SPA) Al Basti & Mukhta

内装 (ロビー、客室) Depa Interiors

撮影 ナカサカパートナーズ

ドバイのビーチサイドに立つ「マンダリンオリエンタル・ジュメイラ・ドバイ」。白壁には異調とリスタルガラスで装った内装要素の木が並ぶ。広がる柱の光陰に降り付いた手吹きリスタルガラスには照明が映り、シーンに合わせて1本ごとの調光が可能。ロビーの天井はブルー、ビーチへと続き、ガラスに照明が反射することで空間に広がりを生む。



## Canopy of Light

『MANDARIN ORIENTAL JUMEIRA, DUBAI (マンダリン オリエンタル ジュメイラ ドバイ)』は、ドバイの海に面する都会のリゾートであり、砂丘に立つ巨大な「邸宅」でもあります。伝統的なイスラム様式を踏襲しつつ、現代的なアプローチを試みました。東洋と西洋のミックスであり、空間は風化した表情のトラパーチンや磨かれた木材、皮、ブロンズなど、「質感」と「反射」に満たされています。シンプルなものと、

複雑な表情を組み合わせ、リラックスした空気感を演出しました。

初めて敷地を訪れた時、一方には輝く海と砂浜が、もう一方にはドバイのダイナミックな街並みがありました。その二つの、強烈なコントラストをつなぐように、屋内外の中間領域を最大化することに重きを置きました。コンセプトは「Canopy of Light (光の天蓋)」。かつてドバイを見た、木々につく花が満開になり、空間を明るくするようなオレンジ色の花の天蓋からインスピレーションを得ています。エントランスからロ

ビーに足を踏み入ると、照明を兼ねた輝くクリスタルを付けた木々が並び、足元には水が流れる、石づくりの横やチーク材のデッキが設けられています。光の森は目の前の海のように輝き、内外の境界が曖昧に感じられます。波が銀色に輝く様を再現するため、色付の照明は避けました。砂浜のような色合いの大理石の床は光を反射し、光が透打っているかのような光景を生みます。ロビーは現代的に解釈したイスラム式範囲であり、並ぶ木々によって、地理や文化を詩的につなごうとします。(DesignWilkes)



左/ロビーをエントランス方向に見渡す。右手がレセプションカウンター。砂浜を思わせる床の大理石や、長手方向に流れる水壁とそれをまたぐ石づくりの橋によって、屋外とのつながりを生み出す意図した。右上/軍寄せから外観を見る。右下/ロビーに隣接するケーキショップ。ロビーと同じDesignWilkesが設計を手振った。真緑色を基調に、格子のパターンを反復している

1階のスリーミールレストラン「The Ray」は、キッチンやビュッフェカウンター、バーカウンターを分統して配置、ブルやピーチに視線が抜けるよう、高窓で使用される格子やスチール製のブラントーを開仕切りとしている



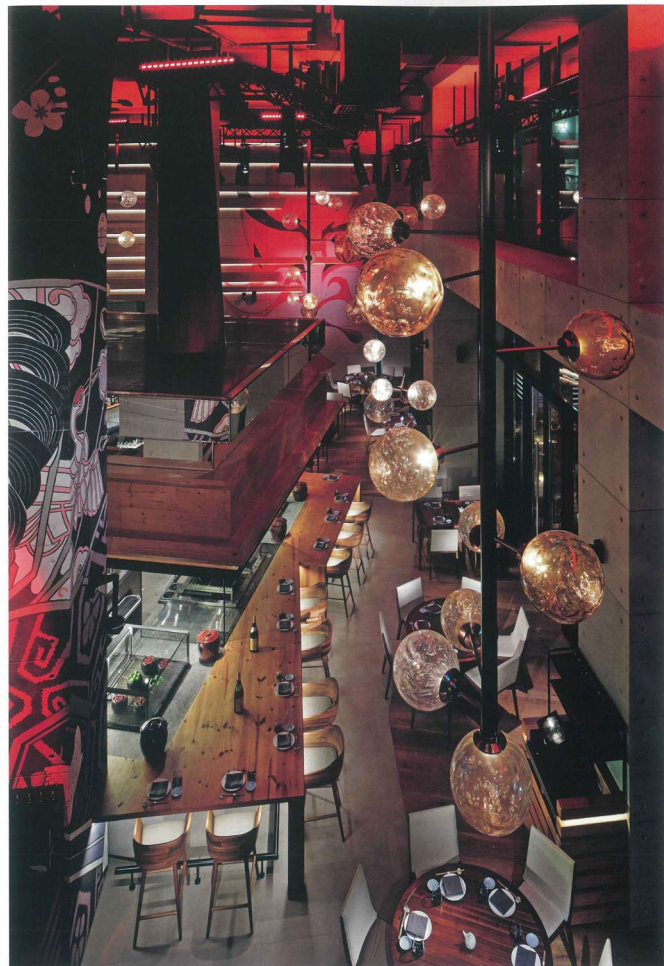
エントランス近くのオープンキッチン。床のパターンを切り替えることでゆるやかにゾーニングしている。キッチン部分の天井はステンレス



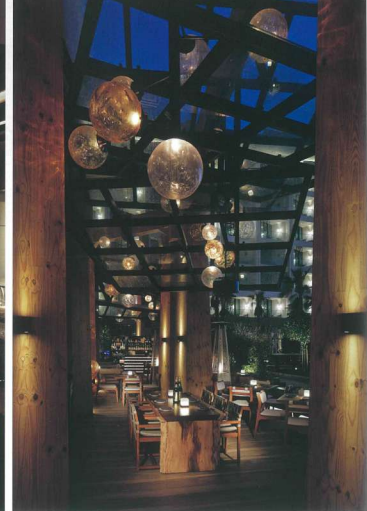
客窓からドリンクカウンター越しにピーチを見る



1 豊田の酒造子 兼川(カヌエ)の「NETSU」  
 フロアが単体で完成したエディブル・パ  
 ンには常食後の難消化も考慮し、米の  
 粒面のグラフィックは、タチバナ(サトウ  
 芋)で活動するアーティストのピーター・チャ  
 イルト氏が現場でペイントした。1980  
 年代の飲食店の広告を参考に制作した



キッチン周辺には食材のディスプレイやカウンターを配置。キッチンに対しカウンターに角度を付け、動きを出している。ペンダント照明は、魚船の浮き玉や打鼓漁しからインスピレーションを得て制作。壁面のライン照明は、劇場の客席をイメージしたものである



左/青司バー、日本酒の種や瓶をディスプレイした。右/屋外テラス席。ブル、ブルーをイメージした柱が並び、テラスにもバーカウンターを設けている



## スリーミールレストラン「The Bay」

「The Bay (ザベイ)」は、ビュッフェ式の朝食からディナーまでを提供するスリーミールレストランです。クライアントからはドリンクステーションやペーカリー、アジアキッチンなどが求められましたが、そのための十分なスペースがなく、無難のないプランニングが重要課題でした。協議を重ねた末は、時間によって用途を変えるオープンキッチン、どの時間帯も使用できる他、分岐して配置することで、多くのシチュエーションに対応します。デザイン面では、各ゾーンごとに床の仕上げを変えることで、異なる居心地を演出。温室で使用される質の高い格子でゾーン間を区切っています。大きな開口からはブルやビーチを間近に感じられ、それらとカジュアルに接続しながらも、洗練された、シックな雰囲気としています。

## ステーキレストラン「NETSU」

「NETSU (ネット)」は、NobuやZumaでヘッ

ドシェフを招聘したRoss Shonhanシェフが腕を振るう和風ステーキハウス。伊勢焼きのグリルや青司バー、バーラウンジで構成しています。2層分の天高がある大きな空間は、歌舞伎の劇場をコンセプトにデザイン。フロアの中央のライブキッチンは歌舞伎の舞台であり、周辺の客席は床レベルを上げることで、炎が上がる調理風景をどの席からでも眺めることができます。また、ライブキッチンと奥の厨房は床を上げた花道をつなぎ、動線の問題をクリアしました。2階にはDJブースやカクテルバーを配置し、ショーキッチンを見下しながらお酒を楽しむことができます。また、屋外にも座席を配置していて、日本の桜林や鳥居をイメージした大きな木の柱や、反射する水面、植えられた竹が風景を彩ります。

## レストラン「Tasca」

6階に位置する、ポルトガル人シェフ José Avillez によるレストラン。店名「Tasca (タスカ)」はポルトガル語で、ドリンクや小皿料

理を提供する、家族経営の小さなレストランを指します。そういったカジュアルでフレンドリーな雰囲気と、ホテルレストランの洗練されたイメージを掛け合わせることが重要でした。レストランは、一方に屋上ブルと海を、もう一方は「ブルジュハリファ」を含むドバイのスカイラインを眺めることができます。フロア中央のアイランドキッチンはゲストに囲まれるため、キャビネットからディスプレイまで、全てを考慮してデザインしました。キッチンを囲むように座り、シェフとのインターフェースが発生することは、食事において重要だと考えたためです。また、エントランスにはDJブースやバーカウンターを設けた他、屋外にはブルやデッキが広がり、さまざまな楽しみ方を提供します。

## クラブラウンジ

5階のクラブラウンジは、スイートやクラブの宿泊客が使用できるスペースです。ゲストに、客室の延長のように楽しんでもらえるようにデザインしました。食事はもちろん、仕事を

したり、本を読んだりとさまざまなアクティビティを受け入れる他、予約制で小規模なイベントの開催にも対応します。そのため、くつろげるラウンジ席や個室、ミーティングルームなどを用意し、ゲストが自らキッチンを使用することもできます。

## スパ「The Spa」

1、2階に設けられた、2000㎡広さのスパは、九つのトリートメントルームやヘアサロン、バイタリティーブルで構成されています。砂浜の砂の波や砂浜に咲く花、サゴザンから着想を得て、木材やシルク、花崗岩で有機的な曲面を形づくりました。いずれも温かみのあるテクスチャーで構成し、各部屋はもちらん人脚下まで、リラックスできる演出としています。エントランスからトリートメントルームまで、自然をイメージさせるデザインであり、施術室から見える高さもインテリアの延長として体験することができます。(Silverfox Studios)



上/最上階のレストラン「Tasca」、世界で18店舗のレストランを展開するポルトガル人シェフ José Avillez が手掛ける。フロア中央にタバスとミクロージカクテルを提供するキッチンが置かれ、カウンター席やテーブル席が取り囲むように配置された。写真奥の開口からドバイの夜景が見える。中/緑蔭のソファ席、クッションやラグなどに基調色としてブルーを用いている。下/海と連続して見える屋外テラスとテラス席



店内からデッキ越しに海を望む  
キッズ部分を置いて天井は格子  
状にデザインされたのが、子供  
部分はバーゴラが掛けられている。  
その結果、開口部を削げ放つこと  
で屋内外の境界があいまいになる





1階SPAを物販エリアからレセプションカウンター方向に見る。砂漠で育つサボテンの、渦を巻くような形状から着想したデザイン



上ノ5階のクラブラウンジ。客室の延長として利用されることと想定し、キッチンやバー、ペラダ、ワークスペースなど住宅を模した構成とした。写真左のペラダ部分は積載を限り下げ、真や温泉のような雰囲気を演出 下左ノクラブラウンジ内のダイニングルーム。天井は実形とすることで落ち着いた雰囲気を演出 下右ノドローイングルームと名付けたスペース



上左ノトリートメントルームへと続く廊下。波打つような曲線の壁によって、出入り口は見過せないよう配慮。花瓶を貼った床は砂紋を思わせる 上右ノトリートメントルームからは海が見える 下ノ更衣室。ホテルの環境デザインとスバをつなぐよう、いくつかの色味を用いながら落ち着いた雰囲気を維持する